

令和8年度

国見学園コミュニティ・スクールだより

～ 地域とともにある学校づくり ～

令和8年10月
国見町教育委員会教育総務課
☎ 585-2119

今年度、国見町は、福島県教育委員会から人権教育推進地域の指定を受け、保育所、幼稚園、小学校、中学校が一体となり、コミュニティ・スクール委員会の皆様とともに子どもたちに人権の大切さを伝えようと取り組んでいます。

そもそも人権教育って、なに？

人権というと、人種差別、男女差別、拉致問題、同和問題(部落差別)、障害者差別、いじめなど人権問題に関わる言葉が思いつくのではないのでしょうか。

では、なぜ、このような問題が起こるのでしょうか。

これらの問題の根底には、「他者を大切に
する気持ちとそれに伴う行動」の不足があります。人間は無意識のうちに、自分が属するグループに親近感や安心感を抱き、それ以外のグループに対して過度な警戒心や「自分たちとは違う」という距離感を持ちやすい傾向があります。これがエスカレートすると、「あいつらは自分たちとは違う」という排除的な心理が働き、排除・差別という行動が出てきてしまいます。

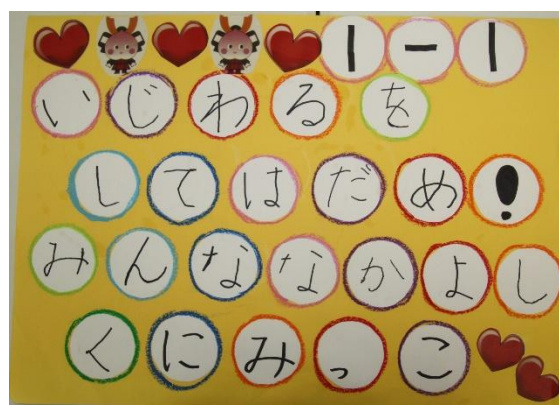
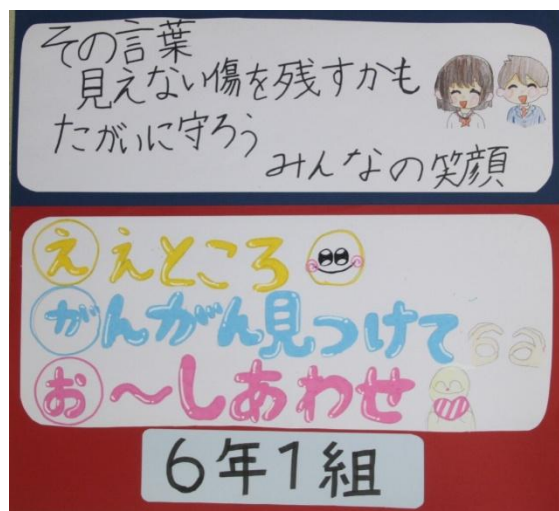
そこで、国見町では、すべての人権問題の根底にある原因に着目し、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める子どもの育成」を目指すこととして取り組んでいるところです。

ただ、これは、保育所、幼稚園、学校だけでできるものではありません。子どもに関わるすべての大人の力が必要なのです。

そこで、国見町では、コミュニティ・スクール委員会の皆様と力を合わせ、取り組んでいます。

国見小での取組

全学級で、学級のスローガンをつくり、日常生活で、他者を大切にする意識を高めています。スローガンは昇降口や学級に掲示してあります。国見小にいく機会があったときにはどうぞご覧ください。



県北中での取組

2学期は、「傾聴」することを重点項目にかかげ、話を聞き、相手の気持ちを考え相手を大切にすることに全校をあげて取り組んでいます。

国見の子どもたちの実態から見える小・中学校の悩みごとは・・・

小学校、中学校それぞれ子どもたちにアンケート調査を行いました。また、9月18日に開催したコミュニティ・スクール委員会では、小学校、中学校の校長先生から、アンケート結果を踏まえた子どもたちの学校生活で困っていることをお話いただきました。

小学校では

質 問		肯定的な回答 (%)
1	自分や周りの人はみんな大切です。	99.5
2	差別やいじめをしないよう心がけています。	96.4
3	誰とでも同じように活動することができる	93.3
4	みんなが安心して学校生活を送るために、自分でできることを進んで取り組んでいます。	84.4

周りの人の大切さはわかっているが、実際に行動に移せないことが課題です。

中学校では

質 問		肯定的な回答 (%)
1	相手がやめてといったことはすぐにやめている。	98.4
2	相手の体型・髪型・服装・失敗したことについて、からかったり、笑ったりしていない。	88.0
3	友達から嫌なことに誘われたとき、嫌だと断ることができる。	88.8
4	スマートフォンやタブレットでメッセージを送るとき相手が悲しむような言葉や悪口を使っていない。	82.5

小学校と同じように、頭でわかっているけれど、実際の行動が伴わず、からかったり、同調してしまったりしてしまうことに困っています。さらに、スマートフォン等によりインターネット上での誹謗中傷など学校では把握が難しいトラブルも増加傾向にあり、大きな課題となっています。

今回、学校の課題を受けて次のような意見が出ました。学校の課題解決に向け、これらの意見をどのように具体化していくか、コミュニティ・スクール委員会で検討していきます。

親・大人として

- 失敗は成長の糧であり、自信を付けさせてあげることが子どもの行動力につながります。そのために、親（大人）も、迷い・試行錯誤する姿を見せていくことを大切にしていけることが必要です。
- 「ほめる」、「しかる」の基準を明確にして、よい行動を強化し、成功体験を子どもに言葉で伝えてあげることが大切です。
- 子どもの話をしっかり聴くことが大切です。目を見て対話し、学校での出来事を親子で一緒に考えていくことが必要です。
- 大人自身がスマートフォンの使い方など日常の行動を振り返り、子どもたちの手本となるよう正していけることが必要です。

学校・教育委員会として

- 情報モラル、人との関わり方、嫌な気持ちの対処方法などについて、大人向けの子育てセミナーや講演会を開催するのもよいと思います。
- 子どものリーダー育成をすることで、子どもの主体性を育む機会を多く取り入れていくことが必要です。
- 子どもたちが義務教育9年間で体系的に情報モラルを学ぶ機会を設けることが大切です。
- 家庭教育相談事業 ほっとルームを新設しました。学校、家庭の困りごとなど気軽に相談できる場です。子どもたちが仲良く学校生活を送るために家庭教育の相談体制を充実させます。ぜひご活用ください。

申し込みはこちらから →→→

